

小学生剣士

全国大会へ

2つの伝統ある剣道 クラブがひとつに

「ヤー!」、「メーン!」体育館に大きく響き渡る掛け声と竹刀の音。剣道クラブ「津森中央誠心会」の稽古風景です。

同会は、令和5年4月、50年以上の歴史と伝統を持つ「益城中央小剣道クラブ」と「津森誠心会」が合併し誕生した小学生の団体です。現在は、5人の指導者のもとで、小学2〜6年生の部員11人が津森小体育館を拠点として稽古に励んでいます。

「一、両親、先生、友達に感謝。二、大きな声で元気にあいさつ。三、鋭い打突を足で打つ」稽古前に復唱した津森中央誠心会三訓。この教え通り、稽古では、力強いあいさつと掛け声、剣を打つ鋭い踏み込みがとても印象的で、その緊張感も目に見えて伝わってきます。また、先輩から後輩への指導もあり、部員たちは稽古を通じて自らを鍛えるとともに、仲間との協調性も高め合っています。

団体戦で

全国大会出場を決める

6月3日に合志市で行われた第48回熊本県剣道道場連盟少年剣道錬成大会でベスト16となり、全国大会出場を決めた5年生園川誠志朗くん(広崎2町内)、5年生小田原佳介くん(畑中)、6年生山邊龍太郎くん(田原)の団体戦チーム。全国大会の目標を尋ねると、稽古中は大人顔負けの気迫でしたが、笑顔いっぱいであえてくれました。

同会の指導者でもある父、誠一さんの影響で剣道を始めた先鋒・園川くんは、「練習で学んだ技を全部出し切りたい」と意気込みます。「声を出す!」そして全部勝つ!と中堅・小田原くんは気合十分。大将・山邊くんは、「前の試合の結果に焦らずに、練習通りの試合をして、勝ちたい」と大将らしい落ち着いた表情で語りました。

日本武道館(東京都)で開催される全国大会。部員全員で心技を高め、挑みます。

上段写真/
津森中央誠心会の部員たち
下段写真左から/
(1・2枚目)気迫あふれる稽古/
全国大会出場選手の園川くん、小田原くん、山邊くん

